

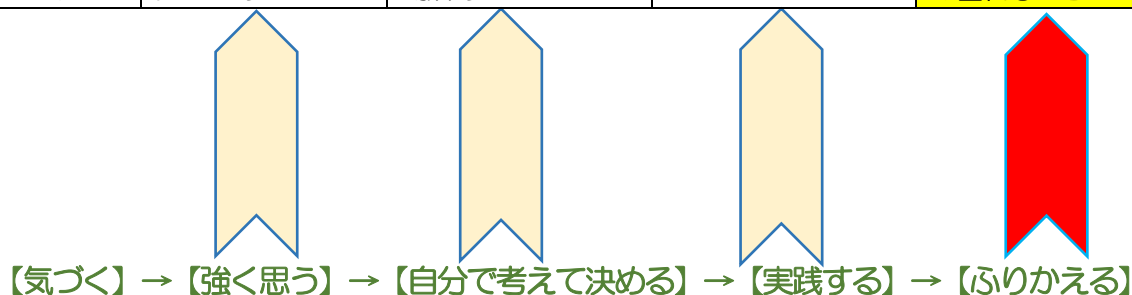
令和6年度 学校経営の基本方針の具現化について

学校経営の基本方針「みんなが楽しい学校」の創造そして幸せへ

重点課題【楽しい学校にするために自分の幸せみんなの幸せを考え行動する】

○「楽しい学校」の創造のために幸せアップ運動をすることを自分事としてとらえ、所属する一員としての自覚をもって気づき、考え、自分で決めて、実行するようになれば今日的課題は解決に向かい幸せを享受し合える。

人間の欲求段階	1 安心感がある	2 所属感がある	3 自己有用感がある	4 達成感がある
具現化のキーワード	大前提として安心・安全であること	集団の中に自分の居場所があること	活躍の機会があり他者から認められること	自己決定・自己実現が図れること



目的意識 相手意識	学校が安心・安全であるために自分が できる事を考え実践する	学校・学級の一員として自分が できる事を考え実践する	学校生活をよりよくするために自分が できる事を考え実践する	自分やみんなが幸せになるために自分が できる事を考え実践する
実践事例	・新しい生活様式 ・交通安全 ・廊下歩行 ・清掃活動 等	・くん、さんづけ ・対話活動 ・朝の会、帰りの会 ・学習規律 等	・学習活動 ・特別活動 ・異学年交流 ・ボランティア活動等	・よりよい成長や 幸せになるための めあての決定と 実践

みんなが楽しい学校を創造する子どもたちの幸せアップ運動

幸せアップ運動は取り組む意義があり、誰でも実践可能で、結果の評価が容易である。定期的なふりかえりによって、ほめる材料を生み出すことができる。少ないストレスで結果を出させることで自己有用感を高めるとともに、実践力・実現力・自己修正力を伸ばす。そのためにマナーアップ・学力アップ・体力アップ・やさしさアップをめざす。

マナーアップ	学力アップ	体力アップ	やさしさアップ
・美しい挨拶を行う ・美しい返事を行う ・美しい靴並べを行う	・自ら進んで書く ・共に学びよりよく考える ・あきらめずに取り組む	・進んで運動する ・安全に歩いて登下校する ・天気の良い日は外で動く	・ふわふわ言葉を使う

教師は追い風 「あなたはどうすればいいと思う?」「あなたはどうする?」

与えられるものではなく、自分もみんなも幸せにするためにはどうすればいいか問いかけ、自分のために、友だちのために、学校のために、家庭・地域のためにできる事を自分事としてとらえさせ、相手意識、目的意識を明確にさせる。

